

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	あお					公表日 令和7年2月25日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	10		・今後も療育に適したスペースと環境を整えていきます。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	10		・指定基準に則した配置を遵守し、かつ予約状況を見て職員配置を増やすようにしています。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	10		・現在の過ごしやすい空間を維持しながら、今後も現状に合わせた配慮を適宜行っています。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	10		・清掃やアルコール消毒などを行っています。 ・毎日の清掃、洗濯を細目に行い、必要な時に壁やエアコン掃除も行うよう心掛けている。 ・活動に十分な空間を作ることができている。 ・毎日の清掃消毒を行っている。また、保育室の隣に訓練室があるので、子ども達が安全に移動することもできている。	・コロナ5類移行後も、多くの感染症が発生している状況があります。最新の情報を入手しながら、感染症予防や、まん延予防対策などできる限りの対策を講じて利用者様の健康を維持していきます。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	10		・訓練室や踊り場、玄関や更衣室など利用できる。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	10		・今後も目標設定を行って定期的な振り返りを行っています。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	10		・ホームページに掲載し、行政の指導により本年度から保護者様や各関係機関に結果を配布します。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	10		・各クラス月1回の会議を実施している。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	1	9	・市の指導を随時受けています。	・現在、第三者評価は行っていません。 ・第三者委員について把握できていない。 ・第三者委員会はありません。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	10		・法人内研修、外部各研修に参加しています。	・研修に参加する機会を多く持ちたいが、平日は運営上抜けるのは難しい現状がある。ZOOMやYouTube配信など移動時間がかからないものやいつでも見れるものを活用していきたい。 ・働き方改革で、職員の休みも確実に確保して行かなければならない今、研修のあり方を再度考えて行きたいと思います。
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	10		・ホームページに掲載しています。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	10		・児童発達支援管理責任者を中心にアセスメントを行っています。	
	13	児童発達支援計画を作成するには、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	10		・令和6年度の報酬改定に合わせた計画を児童発達支援管理責任者が作成しています。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	10		・今後も支援計画の目標に沿った支援をチームで積み重ね、お子様の発達を促していきます。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	10		・施設独自に作成したアセスメントシートや、あおの作業療法士が作成した感覚に関するアセスメントチェックシートを使用しています。	

適切な支援の提供	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	10		・設定されている。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	9	1	<ul style="list-style-type: none"> ・月1回のチーム会議で話し合う機会を持っている。 ・毎月のチーム会議にて翌月の活動を確認します。 ・毎月クラスごとにチーム会議を行い、活動内容や行事内容等検討立案を行っています。 ・主任が立案し、チーム会議等で相談を受け、一緒にプログラムを考えることもある。 ・年間の療育計画を基礎として、活動を計画し、自立に向けてできることを増やしていく支援を行います。 	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	10		<ul style="list-style-type: none"> ・年間計画を立て、固定化されないようにしている。 ・月1回のチーム会議で話し合っている。 ・月ごとに複数の集団療育活動（静と動の活動を含む）や制作、季節の行事を組み込んで固定化しないようにしています。 ・繰り返しが必要な療育活動もあるが、日々利用児が変わるので、その日のメンバーによって細かな内容を定める事もある。基本的な内容は年間計画に則って行います。 	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	10		<ul style="list-style-type: none"> ・必要な伝達は申し送り簿で確認し合っている。 ・毎月個別で制作等の活動を行っています。 ・今後も個別と集団を意識した療育に勤めます。 	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	10		<ul style="list-style-type: none"> ・活動内容の確認はできている。 ・打ち合わせができていない時は聞く。 ・ホワイトボードで確認できるようにしている。また、必要に応じて声を掛け合っている。 ・月の計画表やホワイトボードにて日程の確認を行っています。 ・必要な事はその場で伝えたり、ボードやメモ紙に記載し、確認できるようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・その時々で動ける人が支援に携わるので詳細な役割分担まで確認できていない。 ・朝の送迎等があるため、全員集まるとの打ち合わせは難しい。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	9	1	<ul style="list-style-type: none"> ・皆でまとまって時間をとれるわけではないが（終業時間が違うので）その時にいる職員間で振り返りを行っています。 ・毎日全ての子に対しての振り返りは出来ていないが、気付いたことや気になることはその都度話している。 ・送迎に出る職員や退勤する職員もいるため、必ず支援に携わった職員全員で打ち合わせをして振り返りを行うことは難しい場合があります。ただ、個別に話し合ったことを翌日等に皆で共有して支援に生かせるように慕います。 ・個人記録を記入しながら振り返り、話をすることができている。 ・支援終了後、記録を残し共有しています。 ・日々の記録と月1回のチーム会議で振り返りを行っている。 	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	10		<ul style="list-style-type: none"> ・個人の支援計画の目標に沿った記録をとるよう徹底しています。 	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	10		<ul style="list-style-type: none"> ・毎日の個別の記録を取り、必要に応じてや半年に一度の見直しを行っている。 	
	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	10		<ul style="list-style-type: none"> ・主に管理者や児童発達支援管理責任者が参加しています。 ・担当者会議には、児童発達支援管理責任者や管理者や担任が参加するようにします。 	
25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	10		<ul style="list-style-type: none"> ・大分市保健所保健師、大分市子ども家庭支援センター、大分県児童相談所、各幼稚園保育所と連携を取っています。 		

関係機関や保護者との連携	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	10		・保護者様の要望や必要性に応じて、支援内容等の情報共有と相互理解を図っています。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	10		・受け持ちのクラスに対象児はいませんが、対象児がいるクラスは行っています。 ・保護者様の要望に応じて、支援内容等の情報共有と相互理解を図っています。	
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	10		・積極的に他機関との連携を図ります。	
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	5	5	・公園に遊びに行った時など、他園の児童と遊具の使用時などで関わる場合もある。 ・併用している子が多く、交流の機会がある。 ・地域の公園へ遊びに行った際、地域の子どもと遊具や場の共有をすることはあります。 ・あおの多くの子は保育所やこども園との併行通園しており、各園での交流や活動をしています。 ・幼稚園や保育園と併用している子どもは交流があります。	・現在交流はありません。機会があれば交流の機会を持ちたいと思います。 ・計画的に交流する機会を設定したことはないため、交流開催の検討に努めたい。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	10		・送迎時やLINE、連絡帳や電話等で日常的に情報の共有をしています。 ・送迎時、連絡帳にて伝え合うことができます。 ・日々の連絡帳や送迎時に直接伝えていきます。 ・他園と併用しているお子さんが多い現状。	・幼稚園等に通っていないお子さんの交流はない。
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	6	4	・年3回の療育参観時、過程での様子を職員が相談として聞き、助言等行っている。 ・療育参観時にお子様の様子を見ていただいたり、一緒に療育参加してもらいながらの相談援助を行っています。	・ペアレントトレーニングなど、手段を用いた支援は行っていません。
	保護者への説明	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	10		・利用開始前の契約時に説明を行ったり、運営規程を提示したりしています。
36		児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点から踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	10		・必ずアセスメントを取って作成しています。	
37		「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	10		・必ず対面で説明面談を行い、同意を得ている。	
38		定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	10		・家族支援としていつでも相談を受ける姿勢を持ち、面談の機会を設けている。 ・臨時的に要望があった際なども相談に応じています。	
39		父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	1	9	・療育参観での関わりがある。 ・参観時、保護者同士の交流が持てるように支援している。 ・療育参観後、会議室を開放して保護者同士の交流の場を提供し、食事や談笑の機会を提供したことがあります。(前年度まで)	・父母の会や保護者会は未開催。 ・今後機会を作って行けると良い。 ・保護者会はありません。
40	こどもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	10		・対面での相談だけでなく、電話での相談も対応している。 ・相談や申し入れについては、その都度職員間で話し合う事ができている。		

等	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	10		<ul style="list-style-type: none"> ・月1回のおたよりで活動の様子をより詳しく伝えられるようにしている。 ・月1回あおぞらだよりを発行している。 ・月1回、ホームページ上に写真付きのおたよりが掲載されています。 ・毎日の連絡帳や月1回のおたよりで発信している。 	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	10		<ul style="list-style-type: none"> ・閲覧後は、その都度所定の場所に片付け、書庫にしっかりしまうようにしている。 	
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	10		<ul style="list-style-type: none"> ・難しい漢字を使わない。フリガナをつける。LINEの活用（再確認ができるように）など、必要な時に必要な配慮を行っています。 	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		10	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の夏祭り開催に当たり、施設の駐車場を無償で開放し数日間利用してもらえるよう協力しています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域向けの行事は行っていません。 ・事業所の行事に地域の方を招待する等は未実施のため開催の検討に努めたい。 ・今年度は、地域住民を招待する行事はありませんでした。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	10		<ul style="list-style-type: none"> ・各マニュアルをファイルに綴じて施設玄関に設置し、いつでも保護者様が閲覧できるようにしています。 ・定期的に避難訓練をしている。 	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	10		<ul style="list-style-type: none"> ・災害避難訓練や不審者対応訓練を実施し、反省を出し合って改善策を考えたり、防犯強化等行ったりしています。 ・各子どもが災害時用の備蓄食料品を自宅で準備して施設保管しています。 ・職員子ども共に非常食を備蓄しています。 ・定期的な避難訓練や、非常食を食べる期間を設けている。 	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	10		<ul style="list-style-type: none"> ・利用開始時のアセスメント表に記載場所がある。詳しく話を聞いたり、医師からもらった診断書等提出してもらい、把握に努めている。 	
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	10		<ul style="list-style-type: none"> ・利用開始時のアセスメント表に記載場所がある。詳しく話を聞いたり、医師からもらった診断書等提出してもらい、把握に努めている。 ・アレルギーの子は、食事のテーブルを分けて個別対応している。 	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	10		<ul style="list-style-type: none"> ・作成し、行われている。 ・ヒヤリハットも日々記入確認して共有し、安全管理に活用している。 	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携を図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	10		<ul style="list-style-type: none"> ・必要事項は共有している。 	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	10		<ul style="list-style-type: none"> ・共有し、再発防止に役立てている。職員全員で共有確認している。 	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	10		<ul style="list-style-type: none"> ・直近11/14に研修会（外部）に参加し、報告書を提出。共通理解を持てるようにしている。 	
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	8	2	<ul style="list-style-type: none"> ・どのような場合でも利用児の身体に直接的に拘束を行うことはしません。ただ、児童発達支援計画書には、施設のドア、療育室はびりーむ、園庭につながるドア等の鍵を開めることがあると言う一文を記載して保護者様に了承を得ています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現在該当者はいません。 	